

26年8月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
入荷動向	国産材製材品	12.5	18.8	25.0
	外材製材品	12.5	12.5	18.8
	その他	8.3	16.7	25.0
販売動向	国産材製材品	△ 31.3	12.5	25.0
	外材製材品	△ 25.0	6.3	18.8
	その他	△ 33.3	8.3	16.7
在庫動向	国産材製材品	37.5	12.5	18.8
	外材製材品	25.0	12.5	12.5
	その他	16.7	0.0	0.0

国産材、外材及びその他製材品の入荷は、3ヵ月連続で増加傾向。

国産材、外材及びその他製材品の販売動向は、8月は減少、9月はやや増加、10月は更に増加。

国産材及び外材製材品の在庫は、3ヵ月連続で増加傾向。その他は8月増加の後、9月、10月は横ばい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 7.1	7.1	7.1
	柱角 KD12×3	△ 14.3	△ 7.1	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	母屋角	△ 7.1	0.0	0.0
	タルキ	△ 7.1	△ 7.1	0.0
	間柱	0.0	0.0	7.1
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 14.3	7.1	14.3
	柱角 KD12×3	△ 14.3	7.1	14.3
	土台角 10.5×4	△ 7.1	7.1	14.3
	土台角 12×4	△ 7.1	7.1	14.3
	通し柱 12×6	0.0	8.3	8.3
カマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	△ 16.7	△ 8.3	△ 8.3	
米マツ割物	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7	
北洋エゾマツタルキ	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0	
北洋アカマツタルキ	△ 8.3	0.0	0.0	

スギ製材品の価格は、柱角(10.5)は8月やや弱保合、9月、10月はやや強含み。

柱角(12.0)及びタルキは8月、9月のやや弱含みが10月は横ばいに。

通し柱、加工板、ヌキ及び平割は3ヵ月連続の横ばいに。

桁角は3ヵ月連続の弱保合。母屋角は8月やや弱保合の後、9月、10月は横ばいに。

間柱は、8月、9月の横ばいが10月にはやや強保合に

ヒノキ製材品は、柱角及び土台角は8月は弱保合ないしやや弱保合が9月、10月はやや強保合に。通し柱は8月は横ばい、9月、10月はやや強保合。

米マツ(平角・割物)及び北洋エゾマツタルキは、3ヵ月連続の弱保合ないしやや弱保合。

北洋アカマツタルキは8月のやや弱保合が9月、10月は横ばいに。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・スギ・ヒノキ製品の入荷は構造材、羽柄材共に良好、外材製品は港での保管料の関係で増加傾向。国産材製品は安値販売が続いている、外材の一部樹種においては、販売に苦戦しているが横ばいで推移、在庫量は先月に引き続き増加傾向。
- ・全国的に荷動きが停滞しているため入荷は順調、盆月で販売は低調と思う。
- ・秋需に向けて入荷量が増加、販売量は増加の傾向、在庫増加し秋需に向けて事前準備の様様。
- ・素材減も売上げ不振により在庫増加、消費増税反動長引く、販売は秋需に期待、7、8月は販売不振の極み、4月以降からの販売不振で徐々に在庫増加。
- ・国産材は、台風のため出材少ない。
- ・スギ入荷順調、WW,アカマツ入荷順調、材木店仕事少なくビルダーさんへの売り込み激化している。スギ羽柄材は動き少なく、在庫増加。WW,アカマツ、米ツガは在庫増加。

(価格動向)

- ・スギ構造材 (KD) の販売価格は弱含みの中で推移、スギグリーン材は下落しながら販売、スギ羽柄材 (KD) の販売価格は輸入材 (WW) 安値材にも影響し下落傾向、スギグリーン材は安値材が出てきている、ヒノキ (KD) 材は安値の中で販売が続いている、米マツ輸入製品の港湾在庫が増加傾向にあり、価格も下落傾向、北洋材の輸入在庫量がまだまだ多いことから、弱含みの中で販売。
- ・スギは、原木市況は安定していないが、製品需要は低調のまま推移、盆明けには好転の可能性が有。
- ・スギ角物はハウスメーカー向けの需要が秋頃から出てくる見通し、角物以外は秋需が見込めるため構造材が動けば造作材等も動く見通し、ヒノキの動きは良くない、米マツは秋需に向けて上昇する見通し、北洋材も上昇の気配。
- ・スギ製材品は横ばい傾向、ヒノキ製材品も販売弱いが8月までは需要も多くなく単価下げが販売に繋がらないので保合。
- ・ヒノキ原木値上がりのため (台風11号、12号) 製品価格が上昇。
- ・スギは全体的に動き少ない、スギ柱角小口売り (10.5、12.0) 58,000円/m³、桁角40,000円/m³、母屋角G42,000円/m³、タルキG45,000円/m³、間柱KD66,000円/m³、加工板G2,800円/束、KD3,800円/束、ヌキ岩手40,000円/m³、秋田50,000円/m³、平割40,000~48,000円/m³。
- ヒノキは単価を下げてでも買う気配なし、アッセンブル単価 柱角 (10.5、12.5)、土台角 (10.5、12.5) 90,000円/m³、米マツ平角KD68,000円/m³、割物AD65,000円/m³、北洋アカマツタルキS64,000円/m³、P55,000円/m³。